

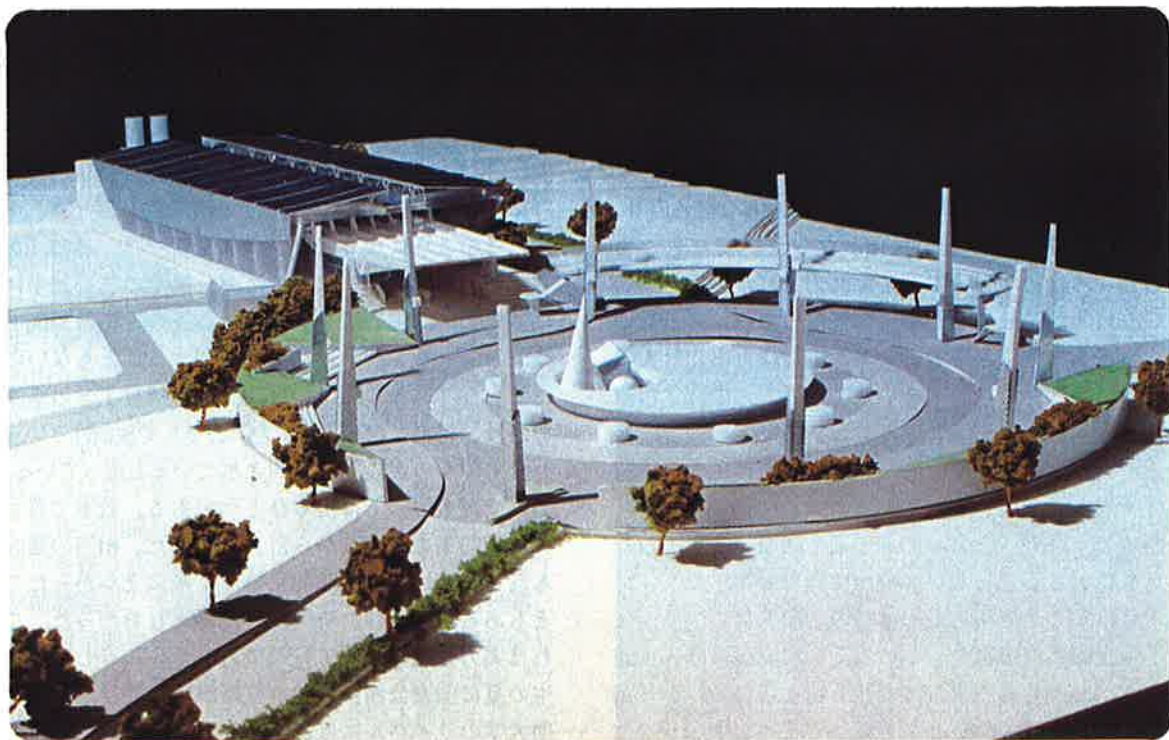
桜工

日本大学工科校友会

No. 74 1992

目次

学生時代の思い出「石塚 貢」	2
新澤順悦先生の理工学部長就任祝賀会	3
近藤元次農林水産大臣就任祝賀会	4
石塚 貢氏の科学技術事務次官就任祝賀会	5
駿河台1号館の建設計画作業から「小嶋勝衛」	6
本館(1号館)の思い出「粟津清蔵」	7
1号館の思い出「堤 重雄」	7
東葉高速線日大駅(仮称)の設計について「三浦裕二」	8
精密機械工学科創設30周年記念	9
交通土木工学科創設30周年記念	9
ニュース	10
平成3年度第三回「桜工賞」受賞者	10
発展する理工学部学術講演会「岡村武士」	11
理工学部入学試験の現況「高田邦道」	12
平成3年度の就職状況について「就職指導課」	13
部会だより	14~16
土木・建築・機械・電気・工化・物理	14~16
数学・交土・精機・海建・航宇・電子	17~19
クラス会だより	20~23
土木・建築・機械	20~23
地方支部だより	24~26
青森県・山形県・宮城県・群馬県・茨城県	24~26
埼玉県・静岡県・大阪府・愛媛県・佐賀県	26~29
職域支部だより	30~33
事務局だより	34
平成2年度卒業生新正会員終身会費納入者名簿	35~36
地方支部職域支部一覧表	37~38
1号館付近のうつり変わり	39



日大駅(仮称) 駅舎とプラザのスタディー模型写真

◎ 平成4年度通常総会は下記の日程にて開催予定です。

日 時 平成4年6月29日(月) 5時30分より総会
総会終了後懇親会
場 所 アルカディア市ヶ谷私学会館

◎ クラス会等に“桜工”をお送りします。

事務局

電話 03-3259-0650

FAX 03-3293-1370

江口・田中

*詳細は事務局までご連絡下さい。

[会誌委員会]

委員長 松本 健次 (工化)	委 員 橋本 正雄 (機械)	委 員 五十嵐正夫 (数学)
副委員長 石山 元雄 (建築)	委 員 石見喜三郎 (精密)	委 員 小泉 達也 (海建)
副委員長 田村 利武 (工化)	委 員 早川 清一 (電気)	委 員 阿部 和弘 (航空)
委 員 白水 暢 (土木)	委 員 南山 斉 (工化)	委 員 高橋 芳浩 (電子)
委 員 矢島 四朗 (建築)	委 員 鈴木 潔光 (物理)	

編集後記

◆ 1号館の立て替えと、それに伴う2年次生の習志野残留、その為の習志野13号館の建設、習志野地区への地下鉄(東西線)の延長と日大請願駅の新設など、今年は理工学部にとって大きな転換の時期に当たる。本誌でもこの問題を取り上げた。

◆ 表紙には請願駅の構想模型を、裏表紙には駿河台今昔を物語る写真数葉を載せた。

◆ 古い歴史を持つ1号館もいよいよ取り壊されるので、1号館に古くから拘わってこられたOBの方に思い出を語ってもらう特集を組んだ。立替えの構想、具体的計画についての記事を、早くから理工学部1号館建設委員会にお願いしてあったが、1号館の立て替えがお茶の水地区(理工・医・歯)再開発?に発展しているそうで、理工学部だけの問題でなくなってしまった。そんなわけで、本年4月の1号館取り壊しも延期されることになり、具体的な建設構想をお知らせできなくなったことを大変残念に思う。

(編集委員会)

平成4年3月25日発行

発行所 日本大学工科校友会

編集・発行者 松本 健次

〒101 東京都千代田区神田駿河台1-8

電話 03-3259-0650

FAX 03-3293-1370

印刷所 有限会社 ムサンノ総合印刷

表紙説明

東葉高速線「日大駅（仮称）」駅舎、広場、アクセス道路の計画

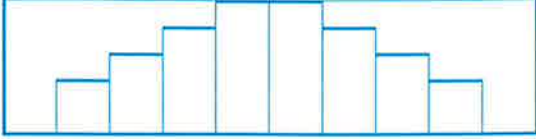
建設地	千葉県船橋市習志野7-24-1 日本大学理工学部習志野キャンパス 並びに一部隣接地
駅舎 規模	床面積 1,736㎡（ホーム階を除く） 床面積 5,452㎡（ホーム階を含む）
構造	上部／鉄骨造（張弦梁構造）一部 鉄筋コンクリート構造 下部／鉄筋コンクリート構造
建築概要	コンコース、多目的（催物・展示） スペース、インフォメーションブース、 駅務室、職員詰所その他
広場 規模	3,217㎡（道路を含む）
概要	舞台、池、モニュメント、記念塔、歩 行者用デッキその他
道路 規模	9,624㎡（全長 587m、幅 11m）

日本大学創立100周年の記念事業の一環となる本設計のデザインにあたり、伝統ある大学の過去—現代—未来をつなぐ『時』をテーマとして駅舎、広場、アクセス道路の総合的な計画を進めている。具体的には大学の歴史を象徴する「過去」を円形広場周囲に設置した10本の柱によって100年をシンボライズし、「現代」を駅舎のデザイン並びに構造によって表現し、「未来」を広場中央の舞台を兼ねた池とモニュメントによって象徴している。

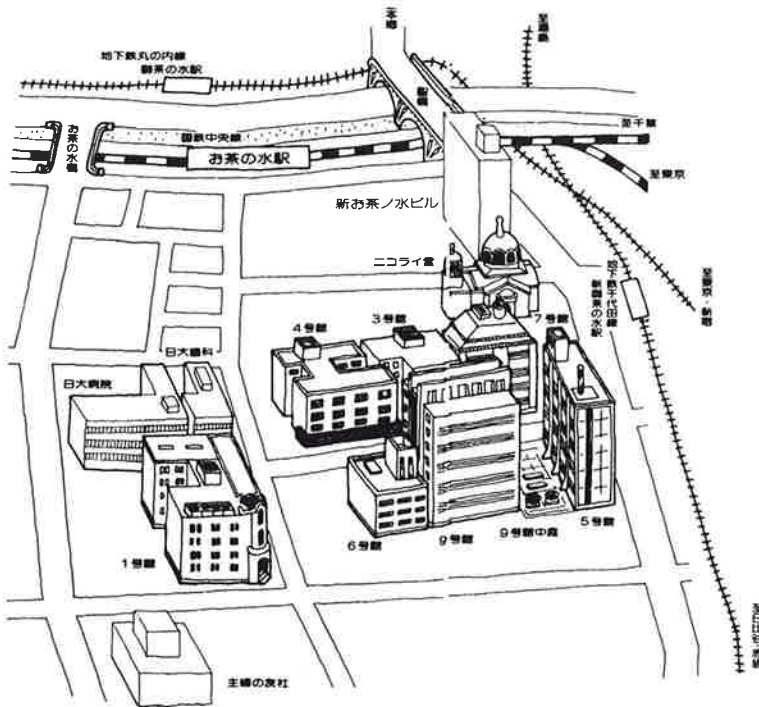
特に駅舎は、単に乗客の乗降機能にとどまることなく、新たな人と人、さらには人と情報の出会いの場としての新しい駅空間の創出を求め、機能的にも空間的にも様々な提案を試みている。さらに理工学部を象徴する現代的でハイテクノロジーなデザインをハイブリッド構造によって表現している。

1992. 3（海洋建築工学科 伊澤 岬）

1号館付近の うつり変わり



昭和30年代頃の1号館, 6号館, 9号館, 5号館の
空中写真(中央大学大学史編纂課提供)



昭和50年代のお茶の水界隈



昭和50年代のニコライ堂付近